838
12
87

15.16

国立国会図書館　タイトル『家忠日記増補追加 25巻』 請求記号 838-87

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『家忠日記増補追加 25巻』 請求記号 838-87
ガラス使用

家忠日記追加巻之十五　自慶長五年八月　至同月日九日

慶長五年　庚子　八月小

根岸信輔氏寄贈

曲山文庫

昭和八年一月　帝國圖書館藏

一日伏見城兵長原ハ後詰ス　内府ハ城ヲ出ル
故ニ寄手ハ多勢ハ城中ニ入黎明既ニ焚城ス
力ハ書ニ云ク内府ハ大敵防禦ニ依テ諸士皆
大手ハ城門ニ相集テ見テ城ヲ攻ム秋時ニ杉平三郎
家忠ニ云ク此ノ程ニ相ハ胃ハ常ニ累代作ノ所ノ名物
利刀ハ第一ニ士卒ハ指揮シテ奮戦ス爲時ニ於テ
別所下野ハ名ヲ集地ハ多ク進ム三奉行
法花ハ実ニ出忠ニ別而ハ指揮ハ乱接ス軍士

城左右より攻め城中より進て出勇如長し御ゆ尽し
て苦戦し敵追退る事三回敵敢て不寄
之ゝも家忠左右の勢を被り敵を被り
すして戦ひ疲ぬ依て城中より為使を以て
ひきまゝい敵追退く家忠逐自刎也十六歳 家忠の
士杉平九七郎 高田久助 大原九郎次郎 同姓長七郎
彼等為三郎 原田門記 三浦右衛門八 杉平兵助 原田
清七郎 河井助大夫 宇野久四郎 振田八郎 横山
河井 北条城山 其外郎 同姓右大夫 猶吉清助 小八十
五人皆戦死 依伏見北城より為所北軍勢成自刎
城郭より流る玉殿ゆ家忠ゝ云高ゆ家忠ゝ
下死ゝ云ゝ流ゝ云ゝ居ゝ右衛門尉元忠十二歳 首
八清水孫三郎 岩城討死 杉平五左衛門尉近正十四歳 首
八筑前中納云秋ゝ清士日夜角助田高右衛門 打付
ゝて伏見把陸ゝ二重迄北浜地ゝ其間ゝ十
横死ゝて 内井作之助 ゝ敵ゝ作ゝ城ゝ出奔ゝて 安藤
治右衛門尉定次 左北役ゝ射貫ゝ其夫ゝ移ゝ葉義
ゝ逃ゝ死ゝて 又上林竹房義死ゝて 孫ゝ将後備 後長講と云
大神君北条ゝ奉ゝ伏見北城ゝ加りゝ
未城ゝ園ゝ以前ゝ城中ゝ出ゝ政所北ゝ中ゝ
し其後ゝ乃ゝ走ゝ 所領悉ゝ天下一統北ゝ 深尾清十郎
ゝ城ゝ出ゝ逐電ゝ伏見北城治事偏ゝ深尾ゝ

[illegible]所設ける引入城より火城設ける[illegible]
此日上方より遣使退治[illegible]る江城に進発[illegible]
福島左衛門大夫正則[illegible]
兵部大輔直政[illegible]多中務大輔忠勝[illegible]
其外[illegible]軍勢池田三左衛門尉輝政浅野[illegible]
同紀伊越中守忠興田中兵部大輔吉政[illegible]
中村式部少輔一忠尉九鬼長門守守隆[illegible]
[illegible]
長谷川[illegible]
長政加藤左馬助嘉明山内対馬守一豊[illegible]
忠氏生駒雅楽頭一忠[illegible]
[illegible]

小五萬余騎江城に[illegible]
[illegible]
[illegible]

一戦に係り粉骨を尽し馬物を命せられ其後馬物を
遣し本文中の記事　大神君より出陣の御物
取り多く仕候ゆえ大久保十三郎左衛門
信州本文中記事　諸規矩の系各合其旨
存ぜず忠義に粉骨山村長三郎馬物を九郎門
千村平右衛門千村助右衛門に申出
慶長五年八月朔日
本文記事　本文人中に
上方勢高崎左近殿より佐竹領内へ勢を指して彼の地へ
出張頼とのよし依て　大神君上方へ小山より伊達
出馬を待て上方へ向て利長の親族より依て
大神君より使として上方へ出張し
利長　大神君北陸方へ
東国に子合として関ヶ原へ合戦
川沿を三田山より陣を小松城丹羽五郎左衛門尉
して関西方中へ寄る留守居
湯山城へ陣を駆引此日より利長及鹿角孫四郎
利政師へ神を山口玄蕃頭へ櫛笥隼人正城
へ攻入て敗小松城より敗走
船にて利長後陣に決死へ
勢地へ村に入り小松城
味方へ敗し日に信を小松城へ
大神君より使として上方へ
元両度利長へ
東国へ子合
川沿を三田山より陣を小松城丹羽五郎左衛門尉
して関西方中へ寄る留守居
湯山城へ陣を駆引此日より利長及鹿角孫四郎
利政師へ神を山口玄蕃頭へ櫛笥隼人正城
へ攻入て敗小松城より敗走
船にて利長後陣に決死へ
勢地へ村に入り小松城
味方へ敗し日に信を小松城へ

出雲へ帰る処に城兵追討仕競
申候へ共日既に黄昏に及び北方長逆の城へ
不得兵を収め大原より北城へ軽卒の輩追
利長の兵を切り支へ欲利長の軍勢沒炮に
成逃退く　此日　大神宮小山北陣営へ祝儀
法度の書状を遣わす
山岡道阿弥所に書状相見え遣わし
こ就上方急劇に成候間
左様に堅固と存ぜ申候
条旨相違候ハ城織部佐
条々有異心と沒ぶ

八月朔日　祝儀法度の事

二日四条犯守る利長の軍勢逆て大原寺北町口
攻破り城中へ攻入る城兵山下へ出張して
と欲と雖も猶も猛勢に成て討ち負山下抱
数を伝て陣を本城へ引入る　三日前田孫四郎利政
大原寺北城際丸攻破り城中へ乱入て城兵推
く本丸不得城将山口玄蕃助其子右京亮代ちゝ
織田源左衛門成田左近将監飯田又六郎　杉丹宗助
徐助兵衛門　其子小市郎　方太治郎　杉五郎兵
岡弥十郎　吉井吉左衛門　吉田清市郎　河村三郎右衛門

四郎九郎石川北九郎相山三郎馬場五郎三郎
今村五郎左衛門福森藤兵衛河合八右衛門高屋平蔵行村
傳左衛門門脇右京亮茂爲五左衛門永井左源太中山
六藏中村惣左衛門瓜生孫四郎八木七右衛門柳田兵物
北屋新右衛門斤岡五助富田半左衛門先崎藤門柳田
兵藏門飯田茂助南太郎八物集甘六右衛門吉田源太郎
藤吉三十郎岡部助如茂門吉瀬村與三郎小五郎兵人
皆戦死也大雪寺ハ城陣ヲ寄子ハ軍ニ云も命必須
し疲ハ被ヲ去其数多一逆徒ニ云先大谷刑部補
吉継小國ハ頼ハ首将ト云子ハ三子家臣ハ復ハ軍
勢京極宰相ニ云次ハ太河内ヲ招投中勢武補其子法師

寺西下野ヲ戸田武蔵ヲ其子門記平塚因幡ヲ木下
山城ヲ因幡ヲ浦奥山雅楽ヲ上田主水正赤座久藏尉
等二萬余騎北國者ハ義ヲ以テ陣ヲ越州
北ハ庄ハ城ハ者ハ不絶伊ヲ逆徒ハ與し云ハ守ル者
飛使ハ敦賀ヲ義ヲ告ヲ曰羽柴利長勇猛ハ云ハ
率ヲ大軍ヲ以國ヲ攻ハ彼ハ由其ヲ大軍ヲ
ハ城毋ハ義ヲ所ハ云徳勢ヲ此城ハ義ヲ日ハ不可絶ラハ
利長前城ニ攻来ル一陣ヲ接助ハ云ハ義ハ
於テ出奔ヲ入ル欲ハ中道ヲ子島ハ地ヲ長ハ生ル
ヲ以テ大谷吉継敦賀ハ出ヲ敵ハ近ハ寄ル
書状ヲ撥し云飛今日ヲ大雪寺ハ城陣

去し山口又子は始に敵城に軍士を悉く戦死を係之利長
大聖寺の城に入籠りの者今日中に北庄の城に接
兵を以て於い尚城守振き敵の北由急に出る又敵方国府
の城い塩尾第刀吉時去て吉時勝
濃松の城に赴き府の城に
しむ平塚因幡守赤座久左衛門大谷吉継を回府の
城に攻しを指寄て於い敵に受て戦軍
敗なりへ山人府の城に攻寄て後北庄の援兵
を彼者る事に働軍に出んとて云へきの方
を浮しむ者に許容して府の城に攻へ敵の
間に小北庄の城に出らい小松の城を毋因長吉も力に

出ふへ其上府の城に攻て於い味方の軍士多く討
死へ能登又府の城に攻て吾多命に預て見に母
く於ら此城に為ても味方の軍勢四五萬騎も弾し
居ても敵方に於い我兵微皆すして大敵に向て
戦新府の城に攻しを敵に為て軍に我
城に為て居ら心国吉に敵に退治を以て戌に当て
しを吾に属しめ人事掌に物りめ暫も難可遠当
と傳を吉継に云に為を其状に寅刻に為を小の者
を到り常別に戸に城を佐行右京亮宣ク許に
大神君に使をしを小山に陣営より為国次兵衛尉に
兵庫を戒宣麾に為に属を軍忠に為を此
命に預に

於い速く兵庫の砦を攻め落すべき旨諸侯を以て命じ被遣
陳を以て大神君に全く逆意なく御忠義を尽し大坂
城を攻め奪取に預り申候様に御内意を以て大坂
大坂城中の悪者共最三成景勝方に内通して
を以て一味を申合せ伊達方に仕候に付戸倉に拒きて
しを以て伊勢の国伯耆川山城の房州野州宇都宮城を
色々と其外軍勢を以て佐竹に拒しめ候に付
義景勝方に拒しを以て 結城三河守秀康（結城の城主）
を以て伊達正宗（仙台城主）最上出羽の守義光（山形の城主）
佐竹侯（常陸の大守）に同盟を以て家康（江戸の城主）
長門の国毛利（中村の城主）里見安房の国房州（房州の城主）
を以て

家康大坂の城を攻落し（上総の国の城主）
上杉（会津の城主）
上杉景勝の城を攻落し（上杉景勝の城主）
上杉景勝の城を攻落し（上杉景勝の城主）
上杉景勝の城を攻落し（上杉景勝

一 不日に仕合輝元秀元氣遣右長大德右拙者
方へ遣分ける者は分ける深志川崎
拙者小拙甲列として成共成程与共も出来覺
ゟ事に仕合は何様上方書子ゟ成ゟ分ふ
ゟ成共成共 意と云ふ押付ゟ成故之分右
拙者上方ゟ之は分其分ゟ仕合は移時
ゟ之は其後ゟ分ゟ仕合ゟ等は成成方
ゟ仕合美濃而仕合物語と方仕合成共
各別と成根其為ゟ而ゟ事成成拙者拙者
地洋領曲中ゟ仕作事ゟ候
一 會津に仕成為御仕合成事ゟ事

一 越後と云は城久左衛門ゟ奉仕分
上方ゟ仕国仕多は越後は景勝ゟ光久左上方
ゟ為ゟ為地洋仕拙者ゟ
一 川中島と云は之ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
仕合方ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
一 羽柴前江戸ゟ為母ゟ為ゟ人質ゟ為ゟ為ゟ
ゟ為ゟ為ゟ今ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
子前ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為

事色々恐ゆる儀ハ一命流罪ハ長岡城中ゟ
ハ彼法度国 内府様ゟ軍之勢ゟ掠新
地ハ新参恨深き彼書子大坂ゟ居ハ焼討ゟ
沙汰ハ付ハ候

一 先書ゟ申ハ大坂西ハ九ゟ
しゝ五百余騎ハ追出 仕見城ゟ西ハ九ゟ移
御元ハ其ハ存伏見ゟ城ゟ居長書門ゟ家
内府様御ゟ大将ゟ千八百余騎ハ四方
渡ゟ敷ゟ 返四方ゟ敷ゟ 参討ハ城中ゟ
ハハ此頃潜者 ハ月大ハ敷ゟ不知一字焼拂ハ
事

一 内府会津ハ仕ハ取敵ゟ僅三萬四萬ゟ人数
ゟ 分十五ゟ城ハ抱廿日ハ城ハ取ゟ事ゟ
ゟ ハ此頃ハ家ゟ聞ゟ今度出陣ハ上方ハ
ゟ 内府ハ弟ゟ二十ゟ来大閤ゟ
厚恩ハ 内府ゟ子一年ゟ恩切ゟ多頼ハ
此ハ仕到 大坂ゟ書子ハ拵ゟ其上
内府此中 各江ゟ知ゟ
分ゟ ゟ 人数一萬上方ハ一萬斗 拵
ハ之共尾三ハ乃ゟ ハ
ゟ ハ会津ハ仕ハ
ハ 入ゟ

一此書を以て何も安心して国許に
書を以て大坂に城に入る者は自然仕合者に
発角四方に及ぶ悪意を以て討死覚悟を要
こは此方為仕置明後日尾州
諸は不安なる事なれば一応と城内に残る佐野
用次次第に出発する尾州表に籠城人数
一寄本吉川安国寺石連長大日向を以て昨日
出いたる所列書を以て決定に相成候
ば打出籠城に自然 内府
濃松と云者の時分人数二万石まで出馬
出馬なと云て言は此書を以て人数五三人以前

悪く国こそ地名なれども右の通り
右は安心は其上金銀玉薬料入れ
秀頼なれば大阪に財宝銀帝国国何
は悪敵に仕其方に
仕は九州方は 内府江州
中し出物金銀添助之下は
一定なる中に石は中納和泉三州池兵衛
加藤弁慶八郎 出陣仕寄者
諸侯八郎 和泉守 刑部其外堀尾帯刀
居合さく具に切腹有 如果刑部帯刀
も新地なれば仕合者に逢中或は病

[illegible]

柳川方大坂江入り申一昨日宇田
河内父子南城内当地江来候
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

八月六日　石田治部少輔

真田安房守殿

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

信濃守長門守ニ而山南の方大田原但馬守長九郎左衛門尉
以下ハ城ヲ出て立華部ヲ山ヲ小松原城ヲ指し　九日
毋利長ヲ小松原城ヲ立ル毋利長ヲ後軍　長
九郎左衛門尉　同新兵衛尉　同九郎左衛門尉　同新井四郎　同
合せ小橋以偏ヲ抽戦ス此ヲ於長ヲ軍士無勢
作太夫宮田小三郎　戚田助九郎　毋利長ヲ庫ヲ力戦ス
利長ヲ兵ヲ以後ヲ物留ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
久三郎　同　岩田伝右衛門尉　大野忠三郎　井上勘兵衛尉
上杉ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
小松原　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
西庫ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ

昭光細川忠興ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
金沢ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
せて　庫ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
池田ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
義助ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ

池田備中守九鬼長門守ヲ三人名一紙ニ書ヲ　十三日　上方ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
　　大神君ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
　　大神君吉田伝右衛門尉及
　　其元ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
　　村ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
　　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
　　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ

八月十三日　吉田侍従殿　家康

池田備中守
九鬼長門守
十六万石田三成佐渡大垣より
薩摩侍従信濃守中務大輔小西摂津守
和泉守
三万石宮内少輔秋月長門守
三万石木村越後守
十九万石東国より
大神君
関白殿
光村
村城
命令
地
事
長崎
村城
命令
大神君
地
事
村城
村城
村城

使として　命ぜられ
法橋より右衛門尉に成り
なされ候ひて法橋皆国に
為ぜられ候ひ
大神君は
迷惑福島左馬丞正則
命ぜられて法橋
此地に
其切にて顕此由村越
廿日　大神君は書状を
美濃国に
知行の
為ぜられ候ひ
家忠
白命に
思召
村越
各
家忠

八月廿日　家忠

遠藤左馬丞
廿一日東国より
城を攻破り
なされ
城より岐阜へ
城を
大山より岐阜へ
門を
城
法橋
遠藤左馬丞
岐阜へ
軍中
大山
岐阜
大山の
岐阜の
廿二日

城より後間もなく北方其用意として馬場孫兵衛中より船
伝を敵の諜者と疑ひて大山より石川
備前守伊藤尉馬守西人北方より使ひ岐阜へ馳
て岐阜へ伝て大山北度接稲葉右京元国長谷部加藤
左衛門佐小此若狭守を岐阜へ指て大山北城へ馳西
伝て南蛮へ思ふ為へ岐阜より
東国へ馳上る北條
将軍義昭岐阜へ城へ移り軍列へ言い福島備後守
へ大手北を持て羽柴忠興蒲生賢秀黒田長政
加藤嘉明田中吉政浦長政其子民部少輔生駒豊後守
丹羽長秀滝川彦右衛門蜂須賀彦右衛門
井伊直政本多忠勝小笠原へ清へ越て岐阜へ城

こ北方へ言い池田輝政へ搦手へ持て
備中へ長吉政へ摂津へ長山内一豊へ馬場民部少輔
肥後へ達安一柳監物直盛へ堀尾忠氏へ木下右兵衛尉
小北方へ河田へ清へ城へ為へ後へ
時へ輝政へ岐阜へ城押へ
言へ為へ
へ大手へ庫へ為へ軍
へ働へ清へ西へ為へ
利へ思へ勇へ武名へ
へ知行へ伝て池田へ
真田安房へ昌幸次男左衛門佐父子野州小山へ行列
へ小笠原信州へ安藤へ揚へ時へ伊豆へ

信幸い　大神君に味方し信玄父の昌幸輙く
出し　信幸領内ひやらし　邑里を放火して信玄
信幸少し手に入れ　兵数を以て又昌幸を攻
山に逃籠り　其利に浴し　此由江戸に注進
も信玄　大神君より注書に信幸に賜り
書状拝見　祝着之至　仍信州上野津に城自
手筆　文之文　計出部　又其表家
番所多佐渡守　計者　家忠
注進　之

八月廿一日　家康
真田伊豆守

廿二日　池田輝政　浅野弾正長政　山内一豊　堀尾忠氏　馬場豊氏　戸川
達安　堀尾忠氏　一柳直盛　京極高知　軍勢を河田の川岸
陣　達安　百人　数而　三千余　兵庫　新加納
出張　一柳監物　黒田領　川表　伝人　おなり
一柳監物　黒田領　関東　集門　能知
より　其上前衆　玄以　到　及　縋　人数　木戸
川北　深　番　計　初　信玄　今日午刻　一柳
直盛　木戸　川北下　北浦　入　海　輝政　庫
伊木清左衛門　先　見　上　北瀬　船　浦　馬場池
入　浅野　堀尾　忠氏　次　軍勢　各川　海　向
岸　上　関　為　攻　乗　彼　城　中納言　表

岡廣孝を出張して軍使なりしを下知なりて敵背川
岸より支を拒き戦を雖味方は猛勢川に流れ
敵を奮戦に間拒く事なり得敵も勇敢を以て味方
に軍士を以討事二里百を敵前より洪田筋を陽其
後三郎右衛門尉合を拒戦小洪田筋三郎右衛門尉赤き色れ勇を
兼松又四郎右衛門尉を以追掛数刻相戦ふ事
其雌雄決せず山を動を戸川肥後守達安治谷
を戦切に尽を飯尾勘平に池田備中守に討を其を
得を後田信濃守に輝政の軍士を以討かの其家
前田十郎兵衛尉武弟猶を陽小河筋を陽市に始七百余
人を以討死を名を級に洪を洪を改阜に城を布施

屋を動を敵出張しを陣を雖新加納に味方勝
を勝を鶴を周に和を敵を誘ひ来に百敵布施屋に
退散しを改阜に城を川入に味方に軍勢其数
八川辺を乗を今日河田の浅を敵を新加納に軍を進
徒に数百人討死に池田輝政撤に江戸より其家の
陣を和を大手に軍勢福島正則内柴忠興等を流
黒田長政田中長政京極高知中務丞寺沢広高井伊
直政本多忠勝に各に代に敵を川に流を向に岸を
上を和辺に民屋を放火しを太閤陣を陣を柴を御
日本を日今日午に刻に方揚を陣を池田輝政川に流
を新加納しを大を戦を敵数百人に討死に其首

黄昏に及んで告来る福島西則長政勝て南手に大なる
先陣として揚手に出張の敵城を攻め此陣に戦功を
き事を云ふ所に福島勝政昭を花士号忠合
て其秋の成敗刻に到て軍勢攻落て岐阜に城下業木
原に攻寄寅刻に及び進て町口に搦門に押詰る
廿三日黎明寄手に軍勢周囲を取て岐阜に城商人町
焼る揚手に大将池田輝政及浅野幸長駿府に籠
て申て町口に攻入岐阜に城に揚龍寺に出て
柏原長右衛門尉に出て浅野幸長加藤喜明羽柴
忠興福島西則に長政に軍勢進て長政城に搦
き戦て敵味方に力攻書て福島進て奮戦に
手の猛勢鎖に攻寄に間揚龍寺に出て敵の
部将柏原長右衛門尉に浅野幸長の軍士に年
六左衛門に任年に討れ佐藤に物勇に無名に戦
死も川瀬左馬允揚龍寺に出て城中に
攻入て黄門家に任て一所に加る大手七曲口に進
左衛門佐浅野田左衛門長家三郎右衛門に
に城中に於奮戦に西則忠興喜明に一所に奪て士年
に揚輝に和戦に城口に武者の間に敵
面に於に味方の兵に進に味方又敵に奮て
攻寄て家に於て忠興に任年御田寺助駒手三郎
に於て討れ忠興に長浅野右衛門
中西伯右衛門

四討死して武為岩ヶ崎を増文を敵味方
ともに苦戦して城兵逐に利なく失て門退らんとせ間
樽を稲葉右の福者ら兵士に吉村又右衛門尉演説せ
門より招れ樽を手時福島信平ホ五六騎有
に右次く京極侍従高知義神ら洞峯田吉屋家より
遠国に攻上る池田輝政福島正則ともに和泉に
ひとしを攻入れ時福島川越に軍に池田に戦切越
其後恨を伝を池田ら軍勢城中を攻入て進む
先遣れ敵を大に敗て焼ら池田ら軍士ホ焼ら高ら
也逐ひ本に下り池田忠を其後に奔て長良川の
辺を廻り水ヶ手より攻を城を乱入輝政ら旗に
九を建ら寄手に勢多勢勝ホ攻討百城を利に失て
筋迫て于時木造左衛門佐泥に城を和泉守城
秀信波鼻に城に籠ら城下を放自殺を欲
正則に押留制ら伝て自害に城を半流し里
ヶ月ら後信後年三月に病死して波鼻に城に
城に籠て欲池田輝政に論て本九を出し
を旗に建ら本我ら先ら先ら敵ら敗ら
輝政城に籠て争論を自為忠信ホ正則に諫制
ヶ雖正則を許容せて于時輝政ら曰前ら大敵ら
今ら武功に奔ホ忠ら非を偽を伝
之逐ら正則に輝政
九ら建ら寄手に勢多勢勝ホ攻討百城を利に失て
筋迫て于時木造左衛門佐泥に城を和泉守城
秀信波鼻に城に籠ら城下を放自殺を欲
正則に押留制ら伝て自害に城を半流し里
ヶ月ら後信後年三月に病死して波鼻に城に
城に籠て欲池田輝政に論て本九を出し
を旗に建ら本我ら先ら先ら敵ら敗ら
輝政城に籠て争論を自為忠信ホ正則に諫制
ヶ雖正則を許容せて于時輝政ら曰前ら大敵ら
今ら武功に奔ホ忠ら非を偽を伝
之逐ら正則に輝政

国立国会図書館　タイトル『家忠日記増補追加 25巻』　請求記号 838-87
ガラス使用

撤兵帰陣して岐阜に城籠りし由江戸へ注進して岐阜
に城後接として石田三成の軍士松江勘三郎家
部の者以為て河田に堀を出張して又西海の軍勢揃
よ次く是田甲斐守長政方へ使を遣る虎田中兵部
蒲長政生駒豊後守岐阜に城家中出陣して
城に籠り敵に悉く討死に成り西方へ落ち行く岐
阜に城後詰として敵河田に出張して岩に付て
見る我方今日に職分なりと喜び悦て軍に勝て見る
内に敵川浪勝手に張り前に高れ不時
田中兵部蒲寄口に浅瀬に寄出して田中長政
進る川を渡り乗入れ乃ち岸に引上て一同に川に

海へ敵川岸へ出るを見て拒しかども多勢川に満て
其場へ寄る者討れ間敵を追て石田軍士隊
に黒田長政自陣に引上て石田軍士隊
に討死部将を辛て力戦して討死胃甚子に士卒に
軍切に成て石田に信松江勘三郎駆して退く田中信
士達勘三郎と名乗て松江に成て松平右衛門殿
に馳来て松江に成て清に其家に味方に軍勢を
以清に中数百級の敵を敵に成て
成に成て大垣に城へ北入る
士書に真田伊豆守信幸に場 此日 岩徳院殿
然て所に明廿四日興地に出て形に相働家

其子[illegible]
右様ニ[illegible]
八月廿三日　秀忠

真田伊豆守

廿三日信州ニ[illegible]
台徳院殿真田安房ニ昌幸出城代ニ[illegible]江城ニ
[illegible]
右様ニ忠勝同治右衛門尉忠佐本多佐渡ニ信樹原
式部少輔康政酒井備後ニ忠利其子忠勝本多美濃ニ
忠政本多光重ニ康重酒井宮内少輔家昌榊原長門
歩右近ニ忠政仙石越前ニ[illegible]小笠原[illegible]

廿四日

ホ三萬八千七千余騎　台徳院殿信州ニ着即真田
安房ニ昌幸ノ横谷上田ノ城ノ囲ニ[illegible]
ノ軍勢城ニ[illegible]
[illegible]
朝倉左平ノ宮内宣政[illegible]齊藤ノ右衛門ニ[illegible]
右衛門尉戸田ノ平治郎右衛門尉中山勘解由右衛門尉
ホ[illegible]
善大夫ニ[illegible]
強ノ忠政本多忠政ノ軍勢ホ[illegible]
忠政ノ軍士酒井小兵衛小田角右衛門[illegible]
大久保忠隣[illegible]

台徳院殿命ありて日軍令に首を列し乱れ辛命を
拒越せり此条曲事なりし由聞八人に出世を
申多忠政物部康成の魁にて長士に諸を問ひし由
命せしに物部と云ふ者白金く信平ふ辛命を拒て
康成に指揮して長に戦しむ進て康成其死を
んとせしに信士に伏す 台徳院殿清光に出陣せしに
物部康成其忠成及び魁八人に其科ありしを
我書に出ずるしむ市橋下総守長俊 大神君に
汚命に参て野州小山より福島正則に仕て長俊
を居城濃州今尾に城を為来て此を守り今尾の城
に拒て逆徒を不八部三郎多勇を陣して九月

三部三郎尉福島に城を大垣に城将任ず
市橋尉に御て藤川に向ひの岸大久保村に陣
張り市橋長俊城中より突地村に出張て川に
隔て矢軍を八月廿四日に黎明に長俊不意に川
を渡て戦ひ九月伊奈に退て其利に乗て進
福島に城に囲めい城将九月城に達て大垣より援
長俊福島の城に入籠て長に大垣の通路に防塞大坂
に城より大垣に向て長書に携て恐て出に
こと出て捕て福島に行に参て 稲葉彦人通道
大神君に台命に参て野州小山より駆て岩子の
城に入る九月大垣に帰て境に立て考ふ和

依て兵庫の砦を出て城に寄ふ城主通道郭外へ出
張して晩年に進て是に拒く間嘉隆戦事に勝
兵庫の師を退散せしめ其夜武田信虎野州小山
より上州に入る　大神君富田に命ずる惣列に渡
海安らはれい上方に向ひ自由ならしめ進て本国へ
馳海を渡海に仕来自由なしらしめ
多部左京亮に相伴て小山に向ひ三列吉田に来る
百余騎に相伴し勢列に起く沖中に九鬼嘉隆
賊船に乗移る時に富田に船に乗る
川付に富田に籠友の好に陣に依て慌に解て
富田餌に口に道を渡に城に向入り多部に吾城を

に城に要害を思案して守り新に依て渡に城に
東方に口に塩言衛に富兵部に手伝小山に松坂の城
に入るとも敵来寄来に富士平に少て渡乃城
加り出三日に焼失に遂に軍勢渡に城に東に
に関に攻む此日に毛利に軍勢城に西の方に
南門に攻掛り三に乱入て東に口に多部に
拒き戦に難完戸備前に多勢に討に乃事
に降多部に城中に入り毛利に鬼兵に
城に攻入り城兵者戦に出に城門に
毛利に兵郭中に清左衛門に城に攻入
徳に戦死に井上清左衛門城中に入居に

[illegible]を通る出る　廿五日　大神君大原備前守
[illegible]書状渡る
[illegible]中上山上方に出馬し義光と[illegible]
[illegible]景勝其日に死出に於義
[illegible]
八月廿五日　家康
大田原備前守
廿六日　池田輝政、河田合戦に[illegible]今日午刻
江戸へ[illegible]　大神君其戦功に感[illegible]輝政に
書状渡る
廿二日　[illegible]今廿六日[illegible]刻[illegible]
川表と義[illegible]及一戦数千人に討捕
岐阜に注進[illegible]
[illegible]
八月廿六日　家康
吉田伝信
此日[illegible]城[illegible]天文[illegible]和睦[illegible]城[illegible]
城将富田落髪[illegible]
中郷山[illegible]入[illegible]
大神君富田
大神君[illegible]使[illegible]
尾州清洲[illegible]岐阜[illegible]
[illegible]　台嶺[illegible]
大神君敵[illegible]

来て国元より正次に曰大炮北方に向く　大神君より
何方に給元に知る　廿七日池田輝政福島正則等
北城に攻寄る　北城攻寄る　江戸より来
る　大神君感悦ふ浦しと書を輝政に渡
す　次第に寄せ掛る　中納言中山道を押上り行け
我等は此口押可申と御申　御尾張より使を
以秘示父子出馬　八月廿七日　晴
吉田侍従方
大神君池田侍中に長吉より書状渡す
此日

今度の戦其元成敗を子細に人情に自分に
名子弟に次第に示し明日敵書中に書け
中納言は中山道を上り中に付け　我等は此口出馬
中山道を御尾張に使を以て渡す
八月廿七日　晴
池田侍中より
此日井伊直政中多忠勝と後を一柳監物直盛
に長松城攻寄る　石田三成福原右馬允と和睦
間諜に長松城攻寄る　直盛廿年より知る
もし他より来あらば使を以捕へ
大炮より来る是四人を捕る大炮北奇使に関

廿八日篠堂佐渡守高虎の注進に使者今日江戸へ参る
者も其使池田久三郎に黄金十枚被遣ハ
大神君駿府へ浅野弾正少弼長政より注進
書状拝見申し仍去る廿二日川越城へ
対馬守廿三日廿三日岐阜城へ
注進に付宗康三日出馬申し 中間言中
被仰付旨成敗は同道申遣
大夫又場所者の法のごとく城へ
崩一人も不残討捕申候 中略 拝領
推量に任期度旨し時に
八月廿八日 家康

浅野弾正少弼より
御書長政卿の方へ参る中間に
御書長政卿へ拝見申候 中略
進の旨し時に
参候旨親長より注書被遣
熊無申し

九日大神君駿

一 去廿二日幸田藤原二手に
之へ野に和泉守又四郎
及一戦進崩町際
一 廿三日岐阜惣構
去三右衛門
松原へ
被成
討捕申
中略
朝
三郎
自分
命

事

一四日浅野備前守共各西條郷戸口法出
いたす之に付家臣近山明右衛門
に付死し事

一廿四日佐和山江押詰いたす事

一明朝日之出馬事

一自然景勝相働共城堅固に相持い事仕要
之事

一於其口相働共家康 三河守殿三郎殿安房守殿
伊豆守殿左京亮殿平岩主計頭殿本多豊後守殿

左京亮殿平又八郎付いたす別時に入乱家其に留
固に相詰い事却て以ての儀に

八月廿九日 家康

羽柴秀忠

大神君より上書仕場
今度法別義合義に付別其方家中に対捕之
証文を拾見御ん心地能思召被成
之に付明日之出馬期其節いたす事

八月廿九日 家康

坂尾信濃守

賀長門守宛

大神君より石命仕候之事 池田輝政

和泉を始め小山以下諸国三列吉田より安芸国
勢列より地海より父大膳大夫嘉隆父子長門より
石見国へ城を強し毛利輝元出馬して紀州和歌
城を堅門安房守以下を始め諸国へ
長門守輝元西国へ　大神君江戸
令せられ守護に任せられ毛利宜しく保護申
ら許よ申し　石見国へ城を攻落申し
和泉守殿へ　毛利輝元長門守為方毛利国
ふれ舞曲より城へ要害を構へ
小長つ守浅野村田七左衛門助兵衛田右近小右
戦死を論ず堅門守浅野所其外多く命を殞し民部
門殿を事和し城へ攻長門守毛利
拒て籠戦大に備を組て清り別其を以持して東国
へ帰る　伊賀国上野城を明渡伊賀守野列小山より南
へ駆向られ伊賀守東西国へ城へ強毛利
る　毛利輝元上野城へ攻遂け逆徒を誅し
伊賀守逆中より此度以て逆徒
し魁をなおかる　波列言須城を徳永寿昌
大神君　泊命を以て北列小山より西
毛利輝元　長谷川城へ福島掃部助
を以て掃部助城へ攻落し山国を同掃部

して出るよかり　大坂は城い逆徒に籠り石田治部少輔
小西摂津守備前中納言宇喜多備前中納言
福原右馬助越後守毛利豊後守長門守木村宮内少輔
其子信濃守九鬼三郎左衛門（初福原右馬助と云ふ）秋月三郎左衛門
毛利中務大輔吉川広家四国九郎左衛門二萬三千石宗騎長宗
右京亮長束大蔵大輔増田右衛門尉長門守等大坂
城に籠り其外七千七百宗騎今度逆徒
西尾豊後守と云ふ者も稲葉右京亮久右衛門居城郡上に
城に籠り攻し稲葉父子大山城に立籠り此度逆徒
軍に敗て拒き戦ふ全く敗亡仕候長束大蔵大輔
可申東国より西尾より逆徒西尾より郡上八幡城
に攻付全く敗亡仕候出西和吉物同右衛門井伊掃部頭
浜松城に渡り逆徒西尾に軍士各軍
功仕候て帰る稲葉右京亮も忠
信に帰し軍忠に帰す人事に新しく雖三成に仕候
是なく西尾に仕候て時に何い
大神君に帰参仕候西尾に出る逆徒
敗亡仕候　神戸に城に逆徒籠り其
八百余騎　水口に城に逆徒籠り其
其外三百二十騎　亀山に城に逆徒籠り

其兵六百三十余騎　来屋し城に逆徒氏家図書
より其兵七百余騎海上し城及　為相し城に逆徒九鬼
大隅守より其兵四百余騎也元宿と稱号てい
松平右衛門尉より逆徒氏家図書
相模守逆徒氏家図書
相模守逆徒氏家図書
座敷中多忠徒少和泉国門尉徒
城に徒城に逆徒氏家図書
孫兵衛出逆徒氏家図書
徒城兵衛尉逆徒氏家図書
故元亨其後再誅此度に京不中に
康長戸田徒城より逆徒氏家図書

家忠日記追加巻之十五終

家忠日記追加巻之十六　慶長五年九月より十一月に至

慶長五年庚子

九月大

一日　大神君東国へ令出下し給ふ上方へ逆徒等
江戸の城を攻とる江戸の城主遠州
州と江城中九月日向守殿及
菅原織部正三盛政等安藤
州と西北九州さしめ給ふ松倉四郎右衛門尉
城下北町をうつ同しく北町
大神君し幕下に属す東海道及東山道諸
赤松小田原し城主大久保相模守忠世

城主門左馬門尉住城同国府中に城主中村
式部少輔一氏　治命に依て管領志摩守定仍府
に城及興国寺に城に一氏二代に成て
に城主門左紀伊守住城遠州川崎
一乗に同国浜松に城主堀尾住城
紀伊守に成て浜松に城主堀尾
（城別に成し故北城に成と云）同国横須賀に城主
石命に依て三宅右馬門尉康貞其子越後守康信
豊氏に代に横須賀に城に成る
に城主池田三左馬門尉輝政　治命に依て松平右馬物忠頼守
家康に代に吉田に城に成る言葉也
城主田中民部少輔長政　命に依て松平左馬物忠頼守
に代に国寺に城に成る言葉也
（城別に成し故也）同国西尾に城主田中兵部長政
（城別に成し故也）同国の内西尾門尉彦成荒屋に城に成る代に
守に又和泉守遺言に依て（城別に成し故也）尾州清洲に城主福島正則
石命に依て石川左馬門尉康通及松平玄蕃頭家信
正則に代に清洲に城に成る言葉也　松平
又七郎家信及小笠原新九郎安元同母兄弟に依て千石
孫三郎尉に命に寄て尾州名古屋に九鬼大隅守
嘉隆に相続に小太郎右衛門　石徒院殿に仕寄して
住別真田に起て雑　治命に依て上州高崎に城
に物言衛に其後に城に成信州真田　伊豆守に城主京極備前守定

同國小谷城主仙石越前守ハ同國福井の城主
日根野織部正同國松平の城主石川左衛門
府城主堀尾帯刀吉晴越中守ハ同國
犯而ハ利長其外前田孫四郎利政中川淺野
淀川ハ長政東海道ハ城主ハ大神君信代ハ花
將軍ハ城ハ遵渡ハ賢州小田原ハ城及三川吉田ハ
城ハ若松ハ蒲生ハ大神君家川ハ藤堂
加賀源左衛門ハ使者ハ上方ハ出馬ハ
ハ書ハ場ハ
越州加賀源左衛門ハ今日ハ神君家川ハ出馬ハ
中納言ハ使者ハ具ハ切ハ幷ハ陣立ハ彼
今ハハ柄共新ハ長ハ世上ハ我等父子ハ
彼ハハ倫理ハ秀頼ハ上ハ京ハ
具ハ為ハ海ハ
九月朔日　家康
芳堂和尚
星田四郎
田中六郎兵衛
一柳監物
同ハ文書ハ福島ハ池田輝政ハ
一紙ハ場ハ　曽　大神君書ハ伊豆ハ
ハ場ハ

忠義一入は大村治部少輔備前中納言小西摂津
守長崎に別宅を構へ成の貴こと子細を出馬候
旨戸に敬所右衛門を無油断加勢なるべき旨仰せ
言添力事仰遣こと候ても

九月朔日　家康

真田伊豆守

二日　大神君藤沢に御滞陣　三日小田原に成る
御　四日三島に駐　者御　五日清見寺の御滞陣
六日富田に御着　七日中泉に着御　八日九鬼
長門守守隆始め四家の者共討死仕候持しめ
よ献上仕候　度々遣使の儀初のごとく事初のごと
く

蔵の方に出軍切に祈誓せしめ使役西さしめ
候　八日白須賀に御着　九日園部に成る
御　十日熱田に御着　十一日清洲に着御　此日孫堂佐渡守
と家康に　大神君の渡　命ぜ
赤坂に御着　十一日清洲に着御　十三日清洲に御滞
陣　十四日小田原に御着
書状　家康に出馬仕候
以来後に出仕　十二日波多野伊豆守
十二日波多野伊豆守早速遣使
十遣ひ
九月十二日　家康

昨日柳下信濃守長勝大坂城下馬の儀の御法度を
被討しかの輩六十餘人討ち取り其子孫を持しめ福島
正則の許へ送り遣ハ丹後国田辺城へ引き逆徒多
勝ち取り国田辺を攻討と雖城を去り籠城
仰られ候ハ三条大納言 勅使として田辺へ遣ハ
和議仕候ハ又徳川殿以ら名代として前田玄徳心
田辺へ遣ハ和平に結ハ仕し和睦調ハ九月十二日
寄手ハ国勝閑解ハ田辺城去り去り籠城
ハ時戦死仕候ハ及廿一代集 禁裏ハ被ハ一首に詠ハ和歌代ハ

ニ書ハ 古も今もかりぬ世中ハ心ハ残ハ
云ハ系 十三日 大神君岐阜ニ着御此所ハ
方勘ニ清厨ニ書仕場ハ
急度ハ仕ハ小松寺和方書状ハ
見 中納言ハ遣ハ此ハ
ハ知ハ有ハ 青木紀伊守も内ニ中越ハ
ハ 中納言ハ ハ 其方ハ
海大賞ハ入魂ハ越前表ハ
行寄ハ今日十二日ハ岐阜ハ
ハ付果ハ系ハ勘ハ
九月十三日 家康

去ら先　大神君ハ使ヒとして土方加州ヘ遣ハ再
利長ノ出馬ハ和ハ得ヒて于時利長ノ才前田孫四郎
利政屋敷ハ梅ハ能州ヘ引ク為ノ利長ヘ従土方
能州ヘ汪ヒて再三利政ハ和諫ヒてハ利政ハ能
伝ヒ土方能州ヘ為ノ既ヒて利長土方ハ奪ヒて
金澤ハ為向ヒて丹羽五郎左衛門尉長重　大神君ノ
麾下ヘ属ヒて軍忠ハ属ヒて抽き分西尾茂右衛尉
ハハ和ハ諫ヒ利長ハ許ヒて小松城ヘ赴来給ヒ
和ハ成利長ハ能ヒ北庄ヒ城主青木紀伊守
城ハヒて振ヒて欲土方城ヘ入ヒ諫ヒ依ヒて遂ヘ素
和ヒて父ノ紀伊守ハ城ハ出ヒ津ヘ赴ク
滑其子左衛門佐ハヒて利長ヒ従ヒ濃州ヘ赴ハ
ヒて伺ヒて利長師ハ師ヒて濃州ヘ赴ヒ此日
岩徳院殿ヒ書ハ遠藤左馬介ヒ為
飛札ヒ分捕見ヒ中ヒ出ハ仍金茂出雲守ヒ和
淡ヒ郡上ハ和ハ働ハ稲葉右京居城八幡
永歳外曲輪悉ク押破リ数物多ヒ討ヒ其上
稲ヒ刈ヒ中ヒ人質ヒ和ヒ其ヒ上ヒ
城ハ和ヒ諫ヒ又和ヒ滑ハ
ヒ稲葉又東和ヒ付ヒ上洛信州ヘ下向ヒ
陣ヒ為ヒ其表ヒ中ヒ設ヒて

九月十三日　秀忠

大谷刑部少輔吉継小國表ニ制法ヲ立テ威ヲ奮
ヒ名利輝元ニ至テ衰ヘ毛利家ハ二軍ニ
小國ヲ奪ヒ川田ヲ刈シ石田小西高橋ハ許ヨリ
御力添ヲ告ケ日東國勢岐阜ヲ攻シ城下ヲ放火シ高久
ニ渡ヲ越又赤坂ニ進ミ虚空蔵山ヲ見テ小國勢
ハ伊勢ヲ別江撤兵ス中の河内ヲ実ヶ原ヲ経テ大谷ニ
ハ伊勢ヲ別江撤兵ス小國勢ハ待掛関ヶ原ニ
着ス大谷吉継ハ行ヲ軍勢大谷大学助吉継ハ京極
宰相ニ次ス下ル城ヲ頼継伯耆中勢ニ南ニ接ス

小川土佐ヲ因幡ニ左馬助戸田武蔵ヲ因幡ニ記ス河内
ヲ赤座久兵衛尉ハ一萬五千餘騎九月朔日越前
敦賀ハ着ス四國九州ハ軍勢等
大谷ヲ陣ヲ馳ル又勢州ヲ逆徒ハ蜂起
シ城ハ海ヲ後勢州ヲ軍ハ
伊ニ実ヶ原山中の四方陣ヲ徒ニ軍勢ハ地ヲ
ヲ京極ニ次ハ上伊ヲ陣ヲ三成ニ属シ大谷吉継ハ
伯耆ヲ小國表ハ吉継ニ引テ小國ヲ地ヲ
ヲ言次ヲ先ヲ小國ハ実ヶ原ヲ赴ニ次
元来　大神君ハ志ハ通シ軍功ヲ忠ハ厚ク欲
ヲ自然ヲ注ヲ江州東ハ野ヲ大津ヲ

城ヶ原入を旗揚の故寄来らい長谷遠く見て和
拒人為大洲松平閑斎任を代民屋一宇も殆ん焼
拂ふ玉ふ左近将監定俊と與一を物田し城を寄せ
ゆを既酬論仰付て飛使を大坂し城を落て京都を次
大神君を属て大洲の城を攻為る伝を近辺を放火しく
武威仰を形ふし此を之仰出る三成長仰出る事近門を
以東西と戦ふ時其障となる為一連る長谷を長谷
城を毛利七郎元康仰部将として拒る城を
第木平左衛門出雲守宮部三郎柳川侍従四国中国
し六三萬餘騎大洲し城仰関を長谷攻討し城を堅
くを拒き戦ふ為を戦毎を軍を利仰失ふ拒ども此

城長の方計湖あり安害を三方い陸地を接て実
為此麓三町為北を高い山高くして城中仰内の下を
見下し其方僅四五町ばかりを中寄手の軍勢少を
を大蛇仰城を敵入為湖あるを近江一国此仰拒て戦
仰組を攻寄為陸地ばかり搦仰並て多勢影を攻討し方
遂て城此出丸仰攻破り既寄手大手此つを攻入ども
城を油断助左衛門仰閉て堅く為多賀城中を赤尾
伊豆守外郭を焼入て舊戦し部を其方仰ばかりを
為方を潰手を四方少死仰遂て城中を入寄手の軍勢
松浦伊与守仰始死亡の老十余軍其余麻仰部り余仰
頭者一子余人を及拒ども之ども寄手此猛勢長を擬議ども

国立国会図書館　タイトル『家忠日記増補追加 25巻』 請求記号 838-87
ガラス使用

城に籠り攻め寄せ東国に成敗を加へ城を取り
殆力書り　十四日大浮に城を取り
遁げ籠き城　城主言次大和守に逃国を志
に通ぜり味方を　城を攻め国ちらせり城を
多勢に囲まれ数日に及ぶ　拒申最武富に籠り
拒とても今一日城を出て拒ぎらい翌十五日実に逃
徒等悉く討ちとり寄手の軍勢此度に付ハ国に
解て退散せり　彼方の勝利　武功の者共
今日城に逃籠る城に内蔵に者ども
昨日　大神君赤坂の岡山に陣所　此日徒将池尾
呂久に逃るる　生て名　大神君に向て手時

命を出て曰今度速成し軍功に感じ
明日徒輩に為る逆徒に一時に退散せり
に命せり　大神君岡山に陣所　此度に付三歳
の臣高左近浮田の軍勢に取て杭瀬川と号る出張
して東国に成敗　中村成敗　浦一氏の
軍勢に徒輩に攻て鉄炮に敵に越る中村に出張に拒
左近に成敗に入る　軍士等利に乗る心に進て
杭瀬川に越る左近思為に付る事に出張して
伝る西濃に出張に進て中村に成敗
軍勢敗散せり　一氏の臣那一色頼母及京田井利行田中
に合て高に震て戦死せり　左近猶に乗て長駆

進ム時ハ敵ニ馬ヲ乗掛ケ敵ヲ横合ヨリ懸テ中村ノ故ニ
敵ハ不出ル敵ニ対シ士稲次右馬ノ助ト田中平兵衛三郎
保清ト左右ヨリ進ム方六左衛門ト孫左衛門ト
又ハ平ノ平ノ輝ヨリ進テ力戦シ競ヒ来ル軍勢ハ忽チ
進ミ出テ敵ヲ追ヒ詰ル故ノ軍士小川豊前ト名乗テ稲次ト
戦ヒ合ヒ稲次ノ従者ハ小川ハ対面ト稲次ハ
小川ハ法名ヲ称ヒ名ヲ石田ノ三郎ト云ヒ
助来ノ稲次小川ハ幸ヒ来ル句ヲ戦ヒ国命ノ三郎
稲次ハ助来ヲ来ル句ヲ戦ヒ国命ノ三郎
擬議シテ為ル為ニ其ヲ稲次ノ家人ノ為ヨリ小川ヲ
ハ浮ヲ浮田ノ軍勢来ル為ノ故ニ馬ノ軍勢

ヲ為ニ進退其利ハ先ヲ敵ノ軍危シ于時
大神君井伊直政本多忠勝ハ浜未速ヨリ駆ケ
来ル敵ノ忠勝軍ハ奮シ勇ム者ヲ分 奉ハ
全シ元ノ場ノ 大神君言地ヨリ陣ヲ出軍ハ見ル味方
シ軍勢利ヨリ高ヲ敵ハ追時杭瀬川ハ追ハヨリ高ヲ味
方必利ハ先ヲ為ヲ為ヲ高ヲ者ヲ 命セシ 員ヲ鑑
モ不進ヲ川ハ追ヒ敵時味方シ軍勢ヲ為ハ
敵ハ中ハ云ヒ秋一ヒ伏見ヲ城ハ為ヲ
兼ヲ 大神君ハ志ハ角ヲ秋毎日東国ヲ使
ハ為ヲ黒田甲斐守ハ山岡道阿ノ所ヲ来ヲ伝ヲ大坂

と雖も伏見城に籠城し時石田三成秀秋
と諸別に成る赴しもと雖秀秋
軍に江州言宮に在て伯耆三成に疑ふ大谷吉継秀秋
に誘を掛ると雖も使者を招て雖秀秋
此計策に不従て平塚因幡守為広
高宮に来て秀秋に対面す雖秀秋虚病
と称て逗留出合に南軍の方と云る宮に陣る秀秋
頭を相示す九月十四日陣を松尾山新城
移す秀秋中納言小川土佐守祐忠
各秀秋と同意して明日関ヶ原に軍すると時に
と従ふ意を報て討也 大神君の達て其

物に言い 此日石田治部少輔小西摂津守備前黄門宰相
宰相に軍勢に率て移る入大垣城に籠田し方
を相て関ヶ原に出陣す其夜寅の刻に及て福島左衛門尉
西刑の使治部法廷屋山に陣宮に馳来て石田三成大垣
に退去すし方に陣に一戦に敗逐んと欲速
台命に云に進し出に東治部法廷に
大神君に覧し知せ出し出に上方に伝て別陣
に御帰に石に出馬時に引に屋に
命に治部退出に関ヶ原に池ぬ 大神君に
清に喫し出に長に寄し方に天正十二年尾州
長久手に一戦に勝利に海し出物

語をもて頻に関山に注進あるべきの旨仰い既晩天に及ぶ十五日
大神君野上に関ヶ原に宿り給ふ 此陣に伺候の輩 城尾伊賀守
忠氏 内藤弾馬守一光等 作法の大垣の城拒 しかる道
筋は陣を吉川 南宮山に陣を構へ 軍忠抜群の者 使
大神君より達 幕下に属す軍屋十郎三郎 秋元
但馬守 長谷川藤五郎 奥平美濃守 軍屋 遠
藤尾伊賀守 長谷川 伺候 其質軍屋 遠
も吉川に味方に属すべき旨 雖 疑心 依 池田
輝政 濃州 幸長 下 吉川 陣南宮山 拒 の事
田中吉政 出馬 先 立 義 同 申 約 命 待 也
軍 而 関ヶ原 到 陣 此 石田三成 為 陣

家 関 吉川 城 小実北 寄 向 陣 関ヶ原 宿 下 谷 小川 流 関ヶ原 北の
及 西行長 石原 峠 下 谷 小川 流 関ヶ原 北の
野 軍 出 西 山 峠 背 南 平 又 高 島
野 軍 出 西 山 峠 背 南 平 又 高 島
也 大谷刑部 浦 平 家 内 惜 関 の 着 川 流 有 る
尚 片 下 陣 朝 暮 時 敵 味方 の 陣 を
明 方 西 の 刻 乃 霧 漸 晴 物 の 色 顕 る
既 大軍 出 味方 魁 将 福 島 正 則 西 向 敵
馳 合 羽 柴 忠 興 加 藤 嘉 明 黒 田 長 政 本 多 忠 勝
敵 味方 混 雑 戦 其 戦 軍 北 手 天 満 宮 呼
鬨 音 地 動 雷 落 雷 雨 陣 十郎
[illegible] 諸 辛 先 人 一 面 陣 消 今 晴 霽

三雄を居て先駆を遂ると云ふ級に浮きて言虎刑後年
言橋今右衛門先此を以持しめ　大神君に注申陣に敵
速成に戦功ありの分高虎に感に預又福島刑部少輔に
伯耆守を級に得る　台覧に入井伊直政
に対に付て福島に招備に地移け先陣に進んと欲福島
に軍士等見方義に対魁共に争け塞て福島今日出陣に
事なる誰人なれい陣に押割出陣に争ふ出陣に
先に不許　忠吉に対て屈しる長い自斗堪の為なるとも
て忠吉と言る敵陣に馳入奮戦か　忠吉力戦の戦
功に感に被り忠吉勇に寄て力戦て本多忠勝
大神君に賜り駿馬三間半長七尺八寸余と云ふ福浮に陣に

横合に迫入術に尽して奮戦に敵勇に敵に福浮に
六川退て火鉄に敵て忠勝に馬に中に良馬に雖
進事に不得　于時横合に馬に忠勝に授く忠勝
次男出雲守忠朝　于時十九歳　福浮に陣に駆入敵二人に討れ朝
に信士山口立に加藤忠左衛門　秋戦に吉原新右衛門
新四郎　青山三四郎　本多に級に得る　実々原の軍に
なる時　筑前中納言秀秋　事に約に
六に為に遂に　陣に攻る　今朝　平塚因幡守大谷
に陣に秀秋に来調て曰秀秋約に変て　大神君に志に通の
由を告る　秀に泉に言て　泉に言て　大谷吉継
松倉小川及脇坂赤座に遂意に対に　秀秋

陣に拒んとせしが別右四人に以て是に拒大谷吉継の嫡子因
大学助に二千余騎に率て遠井口より向て左の山下
に陣す其外大谷山城守一千余騎右の山下に陣す
又の吉継六百余騎本陣にふせ元吉継無勢にて後に
若せども戦多くして不叶期よりも馬上に於自害せ
んとすれども藤堂高虎京極侍従高次
大谷軍勢と戦ふ高虎嫡長若堂左馬允先陣
に進て奮戦ふ西尾光教子新吉と名乗て
左馬允と組て死す新吉左馬允に従て又新吉
に討れ左馬允甚初陣の由なれども新吉に
今度天下の乱出来せり此時高虎父子
国割に有り西尾光教大谷吉継に
[illegible]

自殺に使しても秀秋の陣より
[illegible]に秀秋一万余騎の兵に向て大谷吉継の陣に
[illegible]し大谷六百余騎に率て
正成平岡石見守秀秋の陣より進て
軍に利に先ずして稲葉佐渡守
[illegible]横に衛戦て大谷の兵
[illegible]に平塚因幡守
大谷吉継の陣に進て
戦死す吉継自殺此期に
[illegible]

陣ニ入勇ヲ奮ハシテ戰ヒ小川ヲ渡リ樋井多賀平塚ヲ見ル
遂ニ先ヲ討其ヲ得ントス大谷吉継平塚ヲ武勇の使ヲ
感ヲ喰ヒ死ヲ決シテ刎馬上ニシテ自殺ス湯浅五助
大谷ノ首ヲ斬テ泥中ニ捨入ル湯浅五介ト名乗テ敵の
多勢群ヲ中ニ馳入テ遂ニ戰死ス菅平右衛門尉言虎の刑ノ場湯浅ヲ首ヲ得ントス大谷大学助其
弟山城ヲ陣ニ軍ヲ出シ白沢勝ヲ軍ヲ出シテ
先の任平大谷先ヲ敗ヲ走リテ見テ皆狂奮ヲ敵
勢ヲ味方ヲ軍勢多ク敗ヲ成敗ヲ成
却テ大谷先ヲ陣ヲ侵ス攻ム秀秋及小川祐忠朽木ヲ
大勢関ヲ原ヲ野ヲ攻討大谷先ヲ戰ヒ難任平

皆戰死シテ殘ル僅ニ廿四騎秀秋ノ多勢ヲ囲ム大谷
先ヲ自殺ヲ決シ欲ス時大学助ノ乳母子掃部久左衛門ヲ
制ヲ止ヲ此陣ヲ味方利ヲ敗ヲ走ル難大坂佐和山
城ヲ籠ル敵ヲ攻入ル七日ノ山中ヲ日ヲ定田ヲ指揮塞ク木
目峠ヲ岩根伝五郎ヲ敵ヲ先ヲ敵ヲ軍ヲ士ヲ
集ヲ毎此ヲ攻上ル二戰ヲ難ヲ敗ヲ走ル
陣ヲ伝ヲ大谷先ヲ敗ヲ中ヲ砦ヲ出ル
敵ヲ大の城ヲ地入リ六ヲ従ヲ続ヲ
城中ニ移ル出来ヲ任平ヲ疑ヲ
其ヲ伝ヲ大谷先ヲ敵ヲ出ヲ大坂ヲ走ル

国立国会図書館　タイトル『家忠日記増補追加 25巻』　請求記号 838-87
ガラス使用

石田治部少輔三成小関村より陣を進て戦しむ夫軍法
て後世陣に赴く味方の先鋒田中兵部少輔金吾父子
馳合て挑戦ハ織田左衛門佐其子河内守古田織部正兄弟
内藤舟越五郎右衛門佐之右衛門其子源六郎名也
人同じく進て敵陣に馳入て軍功抜ん出て織田有楽石田
三成の軍士横山喜内に討取る浅野弾正長政の戸田武蔵守
戦て後に合て相馳む時に織田内匠頭の物頭戸田四郎兵
衛其子二人浅野弾正の侍戸田内匠平治見合て右衛門一所に
戦死す石田伊豆守小西摂津守兼松又四郎安藤帯刀
熊谷市左衛門堀内喜左衛門父子五人能戦て各戦功
抜ん出て敵味方入乱て互に力を尽して右戦中勝劣遅速

遅速利鈍共に伊吹山の方に移て敵味方の軍勢
皆以退討て是迄浅野弾正少弼幸長卿の軍勢
事に忠義抜ん出て初陣の軍に自分に麾て若戦士の者
輩人馬の息休て陣を立て敵を為に
列に乱て移り行る牧田の方に退く忠義抜ん出て
と云ハ敵を追て行く事忠義の為に
行程二町余に退く高地に立て陣に移
ばら付て陣を平に直て進く矢に
非ずして敵に頭し敵に乗て
亜次も決死の軍勢命に頭し
大将備前宰相中務大輔
陣を中務

大備軍士三千騎ばかりにて西宮に出陣
増挑戦い中務大備逐ひ戦死して其間に兵庫に出
金ヶ崎川退き味方の軍勢大に備て追撃
敗の間　大神君高地に陣を張り床机に腰掛
義らん今日こそ軍に法士討死所の首ども検分
法将は帝に地条て其軍功に準じて本多中務大備
福島左衛門尉定正則等は例に倣て接戦時に本多
忠勝云今日諸将は戦功目覚ましき由申上る福島
云忠勝今度は拳を素手に過ぎ敵を
大神君命ずと曰大勝武勇今日
作は敵の手時忠勝に彼等語るべし申上

并伊豆殿二人の御敵の勇敵の武勇
御帝に未候て　大神君豆殿の概は許を氣色を
御床机に腰掛ては業成功出来
陣より戦ひ始る此事先陣に徒将遠慮
雖戦ひ其節に申し合申上る
先金武功に非ず此由申上る
御帝に未候て其戦功に感ぜらる
出て　大神君に向て手時　命
又無存辞して老人に似合事に
区別云誠　君武威大に逆徒大軍に一時に

退治し事時秋の明ける人地を速に山凱歌を唱ふ
る為きの儀に付遠を于時 汐命に曰逆徒は多
勢に一時の退治なる事吾武威深畏の大なる此を非
法持し事切に信ずる能と雖我未満足に諸侍書子
に質を大坂の指図各之を賞未なるしんと家我
狂使に不日に大坂に到る諸侍に書を以て其
時凱歌に唱へしむ為きの儀 台命なる諸侍各此
命に守威厳を振ふ 大神君より使を以て村越
成助筑前守秀秋の陣所に往秀秋の陣より山金の
忍に北指切を乞ひ其に馬を秀秋に授れ
陣 汐命に秀秋に伝る秀秋村越に相伝

大神君に指揮の為に本陣に家侍を僅に家人十騎宿
伝に上招指指示小川に秀秋に伝小秀秋芝の上に陣
大神君より謁を・大神君床机に下り出て
命を云曰最前より志に通し意物に到る悪 古様に
遵て又今日に軍忠感に当作戦に平時秀秋に居
ることに付年伏を指示招指小川に秀秋に陣を
大神君より謁を秀秋行軍切に是を人に欲を佐和山に寄を
先陣に行ふ 命に曰佐和山を陣に事既に井伊直政を
命を下し月秀秋及指示招指小川に亜函おかを佐和山
城に攻し方に寄り即り井伊直政及秀秋小川指
指示に吾に寄を佐和山に走く 今日に軍に

大神君し麾下に属せしめ戦功ありと雖
小栗又一郎ハ彼の小山先陣より抜て戦功抽んでたる
上実撰し方時刻移り日黄昏に及し其状大谷刑部
少山中に陣営を定る
此日水野左衛門尉清成
才田市正兵衛を搦て桑田に町口に攻破り敵出合て振戦儀
自淀搦力戦し敵実伝を信平田田沢原に於て
又敗北し清成進て大垣の城に関し杉本井伊屋
中村武部一氏の軍勢ハ清成に加勢大垣の城に田口福原
大学元政九郎兵衛信長及熊谷内蔵助木村宗右衛門
ハ二し九郎兵衛を搦右に進て文秋月長門守お良左衛門
三の丸に攻寄の軍勢頻に攻討て二し九郎兵衛勝成ら

軍士ハ多く戦功に抽し
此時清成使に開ケ原に馳て大垣の城に九郎兵衛
に注進して　大神君清成の軍功に感賞の使を遣し黄金を賜
十六日　大神君山中より陣に伝て
此日大垣の城を右衛尉秋月長門守吉種左衛
門尉清成杉本井伊屋敷に攻破り
捕られ三人に命に敵兵を
城持福原右馬助熊谷内蔵助木村宗右衛門尉父子覚
和尚ハ自ら腹を切て落涙をして
清成康長に許て此時お良秋月吉種ハ約に
復ハ自ら腹に斬人時　城の焼を慰て

以陣り寄せて城中より入て此城堅く拘て
亜政氣市中の人民秋桂木弘恒小川小佐和山兵部同しく
城に籠む石田治部少三成宇多下野守三成
小西摂津守原し軍を遂行大に利に失い悪名を
其出に出て城に上洛皆退散して殘城
三ヶ所城に籠り堅く拒き戰小早川
秀秋軍勢先に攻入て城を攻城
炮に発して大に奮て頻に拒く秀秋
陣易を敢進事叶不得打傷て手負
松野主馬佐石川伯耆守蜂屋大膳大夫
小島治部少輔等苦戰を抜て城に長谷川右馬佐宗仙
秀秋

此日井伊兵部
小川小佐和山兵部同しく
佐和山城
十七日井伊兵部
佐和山城の手に成て
城に籠り
城に入て
城に攻入て
秀秋
長谷川
佐和山城
城に
城に
城に

秀秋許容ニ遂テ幕下ニ属シテ故ニ正成ノ忠義相叶ヒ
伝ヘテ出ル所ノ実ニ不一覧ノ時ニ及ヒ
黄金ヲ与ヘ正成ニ渡シ其ノ志ヲ賞セラレ秀秋ノ志
ヲモ感セラレテ伝ヘシ所ノ書面ニ此日所其ノ志ヲ
表セラレシ書正成ニ示ス

村松家物語ニ曰ク此日今度中納言家忠ヲ以テ
伝其方ヲ才覚ヲ以テ秀秋ニ相成物語ヲ聞ケ

九月十七日　家康

稲葉佐渡ヲ
召シ先　大神君景勝ハ退治シテ東国ニ出ル
時伏見城ニ帰ル二中納言秀秋稲葉佐渡ヲ

正成ヲ召シテ山岡道阿弥ニ問テ曰ク此度ノ出陣野
心ヲ表スヤ如何ト秀秋忠義ノ者ニシテ軍功ヲ励ム人ト聞
情別ニ非ス城ヲ本ノ居門ニ帰シ道阿ノ時ニ秀秋ノ
此城ヲ渡シ給フ　大神君ニ許シ玉ヒ道阿
許セシ秀秋大ニ憤リ思ヒ玉ヒ変ヲ交ヘ給フ大坂ニ
石田三成　大神君ノ勅ニ遵ヒ給フ時浮田長束
小西安国ヲ召シテ伝ヘシ秀秋ニ渡ス事中ニ
ヒ全ク天下ノ政事ヲ任セ給ヒ諸侯ヲ
此国郡ヲ二ツ国領ノ内ヘ又江州ノ内十萬石ヲ
与ヘ給ヒ平国ノ自ラ接ヒ給ヒ
ヲ誓ヒ給ヒ秀秋事ヲ

大神君より出されて伯耆へ敵せられ城を二度攻落
て伏見へ城を攻んと若狭北河内秀秋和泉守正成し使嶋
の伏見北城に来て御ものを秀吉北政所及本丸を把居寺
秀秋の贔屓にて伏見へ城を九に入しの秀秋西北丸に籠り
て城を守る事逆徒に拒て　大神君より勅をもて御上使
に城を渡すべき疑を不許和泉守正成粉骨を尽して
戦ひ城を渡す逆徒北の郭を焼せて秀秋を意を非て
と雖も軍に勝しを伏見北城の寄手より加て城攻ひ
山岡道阿弥に福島掃部頭に桜井左兵衛尉に長谷川藤兵衛
に　御命に依て攻落しを此城を守り関ヶ原の軍
に逆徒悉く亡ぶる北政所の御方長谷川城と云ふ

舟を乗ふ大海の波に動ぬ如く実
ケ原に戦場に楠の如く成し
指揮を長谷川に戦しめ大に勝て首級を挙
級氏家内膳正内藤左兵衛尉長谷川藤右衛門
山岡道阿弥に卒て城に籠る
開き城を道阿弥に渡し
羽柴下総守神戸北城に
て城に関ひ下総守道阿弥
と北政所に言上し城を
城に籠り道阿弥に
城に入る　関ヶ原の亀山の
城に籠り道阿弥亀山に
に退散して道阿弥番に城に

武威に震ひ　大神君は江戸・駿府・浜松・岡崎・吉田・清洲・尾張・美濃・伊勢・近江・京・大坂・堺・奈良・和泉・摂津・播磨・備前・備後・安芸・周防・長門・豊前・豊後・筑前・筑後・肥前・肥後・日向・大隅・薩摩・壱岐・対馬・朝鮮・琉球・呂宋・高麗・大明・天竺・南蛮・阿蘭陀・ポルトガル・ヒスパニア・ローマ・ジェノバ・ヴェニス・ロンドン・ヒルヂ・ヒルヂ・ヒルヂ

此日大垣城を福原右馬助逐電す 城に残る者
宍戸備前守毛利秀元大垣に城を請取其後 治部
を捕る 雲州国内の諸将大垣の城に
城に遷る 野山を越小和清成軍士に和副せる
廿日 大神君大津に澤る 治部
陣所を移る 此日奥平美作守信昌京都に制法
掌しめ 信昌京都を去る寛永十年七月十四日
に澤る 大神君を渡 今度利長大津
に軍功に義せらる 廿三日 治部
大神君を渡 治部
陣所を移る 平時忠列 上田
進る 伝て 家康 大文 忠函 其外 軍勢 上田
上田に城に関しめ 治部 入洛 越
其後 真田父子 城に遷け 十二月 黒衣 成る 野山
る 越 逆徒 石田治部 三成 捕 大津
落 敗 三成 関ヶ原 戦場 道 江州 野
後 捕 縄 草苅 藤 砂 笠
頭 進 苦
田中 治部 捕 長 治部 三成
進 田中 陣 田中 田庄 関 三成
見 月 山 揚 三成 中 一尺 利 秀
和 大閤 秀吉 揚 作 家康 治部

西住と命ず三成仰せ付けの旨安國寺は去年堺に逃れ出て
難波山月無院と号して潜居せしが雖然此所も危難に
付て洛中に紛れ出て七条辺寺中に密居して方々江列の人々
に風説して世挙人安國寺の出を知れるに依て内府審を尋
来年信濃に出る列信濃国軍出て七条に来て長盛揚を入て
欲と安国寺の人数平井右九郎長盛七郎ホリ左衛門
安國寺の眉庫より物を奪ひ取て出る所に計て二人して
出る所を捕し乗寺辺に立る走る信濃国の軍士に来て
追掛る平井長盛荷駄数を知て有無よりの刺力ぬ
安國寺の実を奪ひ平井信濃に告て暫時戦て逃る死
来年の正月二十二人彼れ内の命に頼て安國寺は長盛頼

傷くして雖存命ず捕る　廿四日毛利輝元
大坂西丸に入る本陣は下屋敷に退く池田三左衛門輝政福
右衛門尉吏部刑部浅野弾正忠京極宰相長崎田甲斐守長谷川藤五郎
等民部卿法印に従る言葉有る　大坂城に居れしめ
玉ふ　廿五日秀頼大納言内府に対面　松浦大炊助
大神君は上宮中に走らしめ問て曰今度の逆乱秀頼
為年に伝て全く其意無て知る所に浦の悪逆
し分其科に陳せらる　昔坂東右衛門尉長盛の
宿に入る言葉に曰秀頼に参上　汝命に依て長盛大坂
城出る大手の門に不法辺に立て乗出る立る
其中に向て長盛に赴其度長盛

其子長大丈夫守護成長為[illegible]

廿七日　大神君大坂西城ヘ九ツ半時ニ移ル

廿八日　勅使来ル　大神君大坂北城ヘ渡御ニ成ル

九月朔日　雲州客僧門跡社人侍従及京都京極殿ヘ参内

[illegible]高人来ル　[illegible]

織部岩助[illegible]尉ヲ[illegible]

十月大

一日　今度生捕ル[illegible]の法中人ヲ今日洛中ヲ大[illegible]

[illegible]一番石田治部少輔三成二番安国寺三番小西摂津守

行長一番[illegible]三番宇喜多[illegible]京中ヲ男女

道[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大神君出羽侍従ヲ[illegible]

[illegible]廿七日大坂ヲ[illegible]

[illegible]

河内守[illegible]

十月十七日　[illegible]

出羽侍従ヲ

羽柴[illegible]利長大坂ニ[illegible]

大神君ヲ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以ての外中国へ越し前田利政実子原出雲守殿へ
伝へ給ふ国へ帰る　十八日丹後国福知山城に
籠城物揃ひ有り明日紫野表中忠興
と共に攻む　九日長岡玄旨の所へ丹後国田辺城へ
小勢を持て寄せ攻む　其警固の為に
命ず福知山城へ攻討　しめ玉小山国道の所へ
陣を如義に詰め伝へ　少も休まず
城へ寄せ攻め　福知山の
城へ寄せ攻め　落れ乗山浄ちも入て自殺
十九日　台徳院殿御出馬　大将
関ヶ原へ　御着　連絡の色々
城へ掛寄る　九鬼大隅守嘉隆堀内安房守城へ寄せ

通電を伝へ　九鬼長門守嘉隆
し城へ移り其後大将へ参候しを
大神君へ　池田輝政父子大隅守宿へ彼
へ命ず　しめ玉小屋へ来れ　大神君へ許し
玉へ　日に敵を接池田輝政へ福島正則へ加藤清正
に歎き　行りしを　命ずし　曰今度の軍切なる場
し地二万石　父子死　敵へ　大将へ
敵へ　大隅守嘉隆　其家人へ　田五郎右衛門へ宅へ
頭数　抜て　田舎へ　加藤へ　斬て　其首へ大将へ献
へ　数列　屋へ　加藤敵へ　しを教書へ　行通
非に絶て　五郎右衛門尉へ　義し　飛へ伝へ　加藤へ通

仰新発ても　廿四日最上出羽より家元東国より高名
景勝ら云て戦い勝利なり　大坂より頼て来る
書て曰
一九月十五日同廿四日同九日於長谷堂より三度
し合戦に上杉五郎左衛門石井伯耆守下木之助以惣
人討死の事
一十月朔日長谷堂より　陣を時長井惣左衛門押撤
千余人討死の事
一白石寒河江澤長尚富義ら不二千五百余人討死
事
一庄内大浦と義坂城を於下父子以三百余人討
死事
一仙北小松田と城攻義城を父子以男女五百余人
焼切り住り事
一佐竹宗九月十八日為加勢秋田百二十挺打以
事
一同廿二日馬上百五十騎足軽千余人打越事
廿七日　大神君御上不例之躰居大坂し城よりて出宅
以家康ら　廿八日尾州大納言義直誕生　初名五郎太郎と又
又義利世に志水氏家ら　廿九日　大神君御不例出仕
お為屋敷と号ても
余懸ても
十一月大

十六日　台徳院殿御所門しめ大坂より出申候伏見より入申候
皆興福寺領に印ばかり
興福寺領一萬五千石と門五千石と寺領
伊賀中ゝ分遣に明年ゟ之五師方へ
其門千石ゝ寺社と伊賀千石ゝ學問仕候僧
被仰付武寺社法度と云書を作申
十一月十六日　慶長
一高麗人
十八日　台徳院殿御所門　皆志摩守忠成五位下に叙
摂津国に任ず　是迄大坂城に御番
大神君に渡し申時九月に軍事に用申ゟ
此迄遣申　戸田左近将監ゟ請取　今ゟ越前に国九国城
此方一ゟ請取此城ゟ年今年ゟ
ゟ到る　松平右馬允忠頼ゟ　今ゟ山城に城番
此ゟ二条城三月景勝に城
伊勢ゟ又尾州大山に城ゟ
本領武州松山に城一萬石元ゟ
今ゟ濃州岩村に城ゟ一ゟ此城ゟ
明年ゟ渡ゟ　紫衣法令に依て大久保加賀守
ゟ知しかゝる任て　土屋平三郎忠直五位下に叙
民部少輔に任て　大神君駿国に御移ゟ
結城三河守秀康に法度に国ゟ　松平上野介ゟ
二ヶ国ゟ福島左衛門大夫正則に国ゟ　浅野左京大夫

幸長筑前國を田中吉政に賜ひ長政に佐渡國を賜ひ山内對馬守
一孝を伯耆國に中村一忠を備後國に赤松二ヶ國を
全吾中納言秀秋出雲隱岐二ヶ國を堀尾帶刀先生
筑後國を田中宰相長政に賜ひ獨り國を京極宰相高次
丹後及豐後杵築に相渡中納言忠興豐後に移し國を
法印丹後に國を京極侍從高次伊勢に
左馬介忠明伊勢に國を淺野左近將監長政備後
國を福島左衛門大夫正則に賜ひ國を
丹後國を須賀谷左馬介宣政に賜ひ
豐後國を竹中重門に賜ひ國を
城を戸田一西に賜ひ城を

張り濃州に門所を設け本多佐渡守に
之利学校に
賞を小姓新介に
命を負觀改要孔子家語武經七書に
大神君に謁し食邑一萬石に
命ぜらるる物 此子三要長兼
仕を
倍中國松山城に
賜ひ

家忠日記追加巻之十六終

国立国会図書館　タイトル『家忠日記増補追加 25巻』　請求記号 838-87
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『家忠日記増補追加 25巻』 請求記号 838-87
ガラス使用